小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人 真誠会	代表者	理事長 前田 浩寿
事業所名	小規模多機能型居宅介護 真誠会プラザ	管理者	福島 知義

法人・事業所の特徴	医療法人・社会福祉法人真誠会は、保健・医療・福祉のサービスに対応したホスピタウンネットワークと、 多くの資格取得者で構成されております。 真誠会医療福祉連携センターを中心に、米子（河崎）、弓浜（大崎）、富益、和田それぞれがネットワークで繋がり、サービスの提供を行っております。

3/25 当日出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0 人 ※1 名、評価提出	0 人	3 人 ※+2 名、評価提出	0 人	0 人	3 人※内、評価 1 名 （2 名は来年度担当）	0 人	2 人	2 人	12 人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	①：年間を通じプラザ職員全員にて、事業所自己評価 9 項目の改善計画実践。 ②：（12 月→）2 月に事業所自己評価を実践し、（1 月→）3 月の地域運営推進会議にて自己評価の公表。	①：常勤スタッフ全員実施。12 名中 13 名実施。未実施 1 名は週 28 時間ﾊﾟｰﾄ。 ※結果詳細は「事業所自己評価・ミーティング様式」参照 ②：改善計画通り、実践できた。 ＜外部評価　項目＞ 「前回の改善計画に対して、スタッフ全員で具体的な取組みが行われていましたか？」 ：7 名「できていた」/7 名	近藤氏：真摯に様々なことに取り組んでおられ、少しずつ進んでいこうとされていることがよくわかった。 亀尾氏：今回で事業所評価は 2 回目だが、前回の数値と比較して今回の方が上がってきていると感じた。工夫、努力をされていることがわかった。 佐々木氏：どのように運営推進会議が開催されているのか、事業所の取り組みや地域との関わりをどのようにされているのかがわかり、勉強になった。	①：年間を通じプラザ職員全員にて、事業所自己評価 9 項目の改善計画実践。（継続） ②：2 月に事業所自己評価を実践し、3 月の地域運営推進会議にて自己評価の公表。（継続）
B．事業所のしつらえ・環境	①：清潔で居心地の良い空間を継続できる。 ②：施設の場所が認知しやすく、入りやすいよう敷地入り口を整備する（看板の拡大化など）。	①：継続的に実践できた。 ②：第 1 回会議にてイメージ図を提示。第 3 回の会議にて前田理事長より計画進行中の旨、話あったが現状未改修。随時、初めての方（ご家族や来所者）に対しては、電話連絡やパンフレットの地図で説明。それでも分からない方に対しては、敷地入り口にて職員が待機するなど工夫し対応した。 ＜外部評価　項目＞ 全 5 項目 ：7 名「できていた」/7 名	・特筆、意見なし。	①：清潔で居心地の良い空間を継続実践。（継続） ②：敷地入り口の整備（看板の拡大化など）。随時進行状況を本部に確認。（修正） ③：ホームページやインスタグラムに動画での道案内を掲載、パンフレット等に説明文やインスタグラムの QR コード掲載、電話対応用の説明文の作成。それでも分かりづらい場合は、敷地入り口にて職員が待機するなど工夫を実践。（新規）

C．事業所と地域のかかわり	①：自治会の回覧板等から、地域の活動やイベントを情報収集。事業所として地域の行事やイベント（各種祭りや清掃活動など）への参加。 ②：定期的に地域の公民館と関わり、公民館活動への参加。 ③：プラザ便りを地域の回覧板に挟んでもらい、地域の皆様に真誠会プラザを認知してもらえる。	①：回覧板は全てコピーし職員共有。1～2ヶ月に1回以上は参加。 ②：定期的に参加（過去資料参照） ③:毎月、近藤自治会長へお便りお渡しし回覧板に挟んでいただいた。地域の方の認知に関しては第3回の会議にて少しづつ認知されている旨報告。近藤自治会長からも認知され始めている旨、話しされた。 ＜外部評価　項目＞ 全5項目中4項目 ：7名「できていた」/7名 （その他、1項目） 「何か困りごとや相談ごとがあった場合に、事業所は相談しやすい場所になっていますか？」：1名「不足」	近藤氏：プラザのことはだいぶ認知してもらえていると思うが、「ここに来たら何かしてもらえるのか」ということがまだわかりにくいと思う。 上村氏：真誠会には支え愛センターが3カ所あり、和田と皆生は活用されているが、河崎はなかなか活用されていない現状がある。小多機の地域交流スペースも十分な活用がなされていない為、うまく活用してもらえるように発信していく必要がある。 前田氏：小規模多機能型居宅介護：浜の絆では元職員を中心に、地域交流スペースを地域の方が月2回利用して「ゆるくつながる会」を開いている。一度見学に来られてはどうか。	①：事業所として地域の行事やイベントへ参加するなど地域に出向いていくとともに、地域の方にプラザにお越しいただけるイベントを企画・開催。（修正） ②プラザの交流スペースを活用した定例のイベント（介護相談会等）を開催。（新規） ③近藤自治会長へ、プラザ便りを地域の回覧板に挟んでもらうよう依頼。（継続） ④地域の方向けの定例イベント等（上記①②）のチラシを作成し、近藤自治会長へ回覧板に挟んでもらうよう依頼。（新規）
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①:行政と連携し、各ご利用者の地域の民生委員を確認・把握（リスト化）。 ②:①を基に、各利用者カルテ見開きの概要用紙に落とし込む。 ③:②を活用し民生委員と連携を図る。	①②：第1回目の会議にてリスト化およびカルテへの見開きページに落とし込みを行なっている旨報告。 ③：①②を活用し連携をとった実績はなかった。11月に福生東・西の民児協の会議をプラザにて開催し、今後の協働・地域連携について情報共有できた。 ＜外部評価　項目＞ 全5項目中2項目 ：7名「できていた」/7名 （その他、3項目） 「前回の改善計画について取組んでいましたか？」：3名「わからない」 「利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議が行われていますか？」 ：3名「不足」、3名「わからない」 「事業所の利用者は、地域の行事やイベントに参加していますか？」 ：1名「不足」、3名「わからない」	岡氏：各地域の利用者のネットワークの把握について、その人が今後どうしていきたいのか探っていくのは事業所のみでなくてもいいと思う。民生委員、自治会の人や近所の人等色んな人との関わりの中で生活が成り立っているので、その横のつながりを大事にしていってみんなで支え合えるようにしていってほしいと思った。 近藤氏；広域（様々な地域）の方が利用しているので、関わることは大変だと思う。 亀尾氏：プラザの地区だけでなく他地区のことを把握されるのは大変だと思う。	①：各ご利用者の地域との関わりや生活等について、送迎時や訪問時、電話などにてご本人ご家族の思いや悩み等を確認。（新規） ②：①にて希望の実現や悩みごとの解決の為、受け持ち担当にて情報共有し、助言を行なう（必要に応じてご家族や地域の関係者、知人などに可能な範囲で協力をお願いすること含む）。状況に応じて事業所の職員も協力。（新規）

E．運営推進会議を活かした取組み	①：地域運営推進会議にて、地域の心配・不安な高齢者を聴取・共有。 ②：(①で挙がったことを）職場会にて共有及び支援や対策の検討。 ③:①の提案者へ報告するとともに、次回推進会議にて発表。	①：具体的な地域の心配・不安な高齢者について、質問があったことに関しては当日の会議中にて、または次月の会議にて説明。 ②：上記①の該当事項としてはなかったが、プラザで関わった事例（第３回の会議にて熱中症の方の対応）について協議した。 ③上記②についての報告。 ＜外部評価　項目＞ 全５項目中４項目 ：７名「できていた」/７名 （その他、１項目） 「運営推進会議では、地域での取組みを一緒に取組もうとしていますか？」 ：１名「不足」	前田氏：プラザの運営推進会議は参加者の皆さんの意見交換が活発だと感じる。今後法人や事業所を良くしていくヒントになることが沢山聞ける。 近藤氏：地域での困りごとまでとはいかないが、新しい包括支援センターはお年寄りが集まれる場所になるのかという期待があった。プラザさんの地域交流スペースを活用してはどうか？ ↓ 福島：今年度はまずプラザから地域へ出向くことを実践。今後はプラザに地域の方に来ていただける取り組みを実践したい。大きなイベントや、定期的に地域交流スペースを活用してもらえる取り組み等、地域の方にプラザに出向いてもらえるようにしていきたいと考えている。※「Ｃ．事業所と地域のかかわり」の改善計画にも連動	①:地域運営推進会議にて、地域での困りごと（高齢者についての心配ごと、対応や支援での困りごとなど含む）を聴取・共有。（修正） ②：(①で挙がったことを）その場で、お答えできることは返答。返答が難しい場合は、事業所の職場会にて事業所職員とも共有し、協議・検討。（修正） ③：②の場合、次回推進会議にて発表。（修正）
F．事業所の防災・災害対策	①：推進会議出席者へ、事業所の防災計画、BCP の公表。 ②：防災訓練の日時を公表（6 月・3 月）し、事前に推進会議出席者へ案内状の送付（出欠確認含む)。 ③：(②の参加者も交え）年に２回、訓練の実施。 ④：地域の防災訓練の日時を情報収集し、（可能な限り）事業所として参加。	①③6/12 夜間想定、3/19 日中想定の消防訓練実施。第１回会議で BCP 公表。 ②③それぞれ日時公表し案内状送付。6 月・3 月とも林氏に参加いただいた。 ④地域の防災訓練は参加できず。 ※事業所として情報伝達訓練（11/16 法人及び米子市境港市）に参加（事業所長が事業所の現場確認・本部連絡するのみ)。 ＜外部評価　項目＞ 全５項目中１項目 ：７名「できていた」/７名 （その他、４項目） 「事業所の防災計画（火災風水害地震等）を知っていますか？」:２名「不足」 「事業所は、地域の防災訓練に参加・参画していますか？」:４名「不足」 「事業所の防災訓練に参加したことがありますか？」:６名「不足」 「災害時、事業所は頼りになりそうですか？」:５名「わからない」	林氏：3/19 にプラザの消防訓練に参加した。職員の声を掛け合っての連携した避難誘導は素晴らしかった。日頃から訓練されていると感じられる訓練だった。また次回の夜間想定も時間が合えば参加したい。	①:運営推進会議にて、事業所の防災計画や BCP（更新分含む)、それぞれ事業所が参加・実践した内容を公表する。（修正） ②:防災訓練の日時を公表（6 月・3 月）し、事前に推進会議出席者へ案内状の送付（出欠確認含む)。（継続） ③：(②の参加者も交え）年に２回、訓練の実施。（継続） ④：地域の防災訓練の日時を情報収集し、（可能な限り）事業所として参加。（継続） ⑤：災害時にプラザがどのような役割を持ち地域貢献することができるか（避難場所の提供等）を法人本部に確認。その指示を受けて具体的な計画を立案。（新規）